



1952-1958

ヒルケルさんからプレゼントされた ユニフォームは日本一だった。



後列左より、土田 小田 小林 佐々木 中務
前列左より、小島先輩 森 門脇

作られたブームなのか、本物なのかは未だ分からないが、サッカーがこんなに脚光を浴びるスポーツに発展するとは夢にも思わなかったのは確かだ。我々がやってた時はボロボロのボールをタコ糸でぬいつけて何とか丸い形をしたボールを付けていたものだが今にして思えば良い思い出でもある。

我々はサッカー部と言えばヒルケル神父を外しては語れない。高2の秋、新人戦が始まる前武宮校長にヒルケルさんを我々のサッカー部の部長にしてほしい旨お願いをすると、「本人に聞いてみないとね」と当時悪の代表生徒であった小生の顔をじろっと見て、鼻

でふんと笑ったものだが翌日「本人がやりたいと言ってるので許可する」との返事でヒルケル部長が誕生した。しかしである、小生のねらいは別であった。というのは、ヒルケルさんは当時神父ではなく別館の他の神父達の食事を作るコックであった。ブタコックと呼んだ方が当時の生徒にはすぐに思い出せると思うが。

サッカーが好きで練習を常に見に来ていた位だからとても喜んで小生に別館に自由に入出入り出来る権利を与えたものだ。これが小生のねらいであったのだ。

サッカー部の部員の事とか、試合の予定とか色々相談に行き、その都度

他の神父たちの夕食の上前をはねていたものだ。

当時の我々の食生活からすれば実に美味しい食事であった事は言う迄もない。

そしてもう一つ特筆すべきはユニフォームである。

当時のユニフォームは普通の白の半パンツに白いシャツ、胸に自分でぬいつけた学校名で相手と味方を見分ける程度であったが、クリスマスプレゼントがドイツのヒルケルさんの御両親から届いたのだ。開けてみると何と当時としては非常に派手なユニフォームが二種類、全員に届いたのだ。こんな派手なユニフォーム、恥かしくて着れな



ユニフォームが派手なので体育祭は先頭を走った。

いよ、と言う奴が出る程当時としては目立つ派手さであった。

サッカーは一世を風びした神戸高校にはとても敵わなかったがユニフォームだけはそれこそ日本一であったのではなかったか。その後ブタコックはヒルケル神父となり、神戸、いや日本国中にヒルケルFCとしてその名をはせたヒルケルさんに現在のJリーグの試合と熱狂するファンの姿を見せてあげたいものだと思う今日このごろ。

ヒルケル神父万才！

[木村 忠昭]